

2-① 聞く耳ってどんな耳？

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：シミュレーション

学習のねらい	話し手と聞き手双方の受け止め方や感じ方の違いを体験することにより、自身の聞き方をふり返るとともに、子どもの思いを受けとめる聞き方について気づく。
準備するもの	時計（ストップウォッチ） 筆記用具 ワークシート【P.68】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもの思いを受けとめる聞き方について考えるために、3種類の聞き方を体験してみましょう。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
15分	【アイスブレイク】 ①聖徳太子ゲーム〈P.101〉 ②たことたい〈P.98〉 ③大きなかぶ〈P.101〉	・聞くことを意識したアイスブレイクをするとよい。	
18分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワークショップの説明を聞く ②話し手役、聞き手役となって体験する ③役割を交代する ④体験した感想を話し合う ⑤まとめ	・2人1組で行う。参加者が奇数の場合は、スタッフが対応する。 ・話し手の気持ちを意識した聞き方について気づくことができるように、「話す」と「聞く」両方の立場を体感するよう説明する。	時計 (ストップウォッチ)
15分	【ふり返りと分かち合い】 ①子どもと接する時、心がけたいことをワーク1にまとめる ②全体で発表し合う	・全体に広げることが難しければ、2～3人に発表してもらおう。	筆記用具 ワークシート (P.68)
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 子どもは親に伝えたいことがあっても、上手く伝えることができないことがあります。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.111「子どもは『親』のぬくもりを求めています」を読む。 《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		配付資料

2-① 聞く耳ってどんな耳？

※ファシリテーターは、状況に応じて話すテーマ例を参加者へ提示しましょう。

◎テーマ例

マイブーム、私の得意なこと、世の中に言いたいこと、私の苦手なもの、家族の紹介、好きな動物、私の得意料理 など

①ワークショップの説明を聞く（2分）



それでは、2人でイスを向かい合わせて座りましょう。どちらが話し手、聞き手になるかを決めてください。話し手は、話すテーマを決めてください。（少し時間をとる）話し手は、聞き手に対し選択したテーマについて話します。聞き手は、時間を指示するので、次①～③のように対応してください。

- ①最初の1分は、聞き手は話し手に反応してはいけません。そっぽを向き、話し手に話しかけられても無視するようにしてみましょう。
- ②次の1分は、聞き手は、別のことをしながら聞きます。例えば、携帯電話のメールをうったり、本やチラシなどを見たりしながら、適当に相づちを打ちましょう。目は合わせません。気のない返事を、あえておかしいタイミングでしよう心がけてみましょう。
- ③最後の2分は、聞き手は、話し手の話を「一生懸命聞く」よう心がけてみましょう。状況に応じて「おうむ返し」「うなずく」「相手を見る」「ほほえむ」などを心がけてみましょう。

②話し手役、聞き手役となって体験する（5分）

では、実際にやってみましょう
※ファシリテーターは、時間を指示しながら進行する。



③役割を交代する（5分）



次に、話し手と聞き手の役割を交代してみましょう。
※①～③を同様に行う。

④体験した感想を話し合う（5分）

今日は3種類の聞き方を体験していただきました。実際に体験してみて、どんなことを感じましたか。2人で話し合ってみましょう。



⑤まとめ（1分）



いかがでしたか。
今日は、大人と大人で体験しましたが、自分のお子さんの話を聞くときに自分がどんな反応をしているかをふり返り、ワーク1にまとめてみましょう。

ワーク1 自分の聞き方を振り返ってみましょう。

子どもと接する時、心がけたいことは何ですか。

